

令和6年11月29日

研修だより 45号



なぜ授業を見合うのか？②

小笠原康晃

前号の続きです。

このような研究授業の実施が、今後も可能なのでしょうか？

私は、かなり難しいと考えます。

働き方改革もあり、校内研修の機会も時間も削減されていきます。

そのような中で、かつてのような研究授業をすることは難しいです。

今後必要になってくるのは「研修の日常化」だと考えます。

日々の実践の中で「教師としての成長」に繋がるような取組が必要になります。

授業を見合うことこそ、「研修の日常化」です。

授業を見合って、そのことについて話し合いをする。

話し合いをすることで、「新しい見方・考え方」を身に付けることに繋がります。

職員室で授業のことや校務分掌のこと、生徒指導のことを話し合うことも、教師の成長に繋がることだと思います。

笠原小では、先生方の御協力もあり、授業を見合うことができていると思います。

その良さをもっと伸ばしていくために、授業について職員室で話すことをしていきたいと思っています。

校内研修の目的は、職員の成長です。

一人一人の職員の成長が、チーム笠原としての成長に繋がります。

「授業を見合って、話し合う」ことを続けていきましょう。